



IBM System x

IBM Upward Integration Modules (UIM) Unified Service ユーザーズ・ガイド

バージョン 1.0





IBM System x

**IBM Upward Integration Modules (UIM) Unified Service
ユーザーズ・ガイド**

バージョン 1.0

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、25 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

Edition notice

This edition applies to version 1.0 of IBM UIM Unified Service and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions. UIM Unified Service is a subcomponent of the following software products.

- IBM Upward Integration Modules (UIM) for Microsoft System Center, v5.0
- IBM UIM for VMware vSphere, v3.0

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM System x
IBM Upward Integration Modules (UIM) Unified Service
User's Guide
Version 1.0

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.11

© Copyright IBM Corporation 2013.

本書について

本書では、IBM UIM Unified Service のインストールについて説明します。

規則および用語

太字の「注」、「重要」、または「注意」で始まっているパラグラフは、重要な情報を強調する特定の意味を持つ注意書きです。

注: これらの特記事項は重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。

重要: これらの特記事項は、不都合なまたは困難な状態を避けるために役立つ情報またはアドバイスを提供します。

重要: また、これらの特記事項では、プログラム、デバイス、またはデータへの考えられる損傷を示します。損傷が起こりうる指示または状態の前には警告通知が表示されます。

World Wide Web リソース

以下の Web ページでは、IBM® System x®、BladeCenter® ブレード・サーバー、およびシステム管理ツールの理解、使用、およびトラブルシューティングに役立つリソースが掲載されています。

IBM Systems テクニカル・サポート・サイト

Support for IBM Systems and servers

IBM ハードウェアのサポートと、システム管理およびシステム展開ソフトウェアのサポートを見つけます。

Microsoft Systems Management Solutions for IBM Servers 用の IBM Web サイト

Microsoft Systems Management Solutions for IBM Servers

IBM システム管理およびシステム展開ソフトウェアをダウンロードします。

System x 用の IBM システム管理

IBM systems management solutions for System x

この Web ページには、IBM システム管理の概説があります。

IBM ServerProven® ページ

IBM ServerProven Compatibility for hardware, applications, and middleware

IBM System x、IBM BladeCenter、および IBM IntelliStation® ハードウェアに関するハードウェア互換性についての情報を取得します。

第 1 章 IBM UIM の概要

IBM Upward Integration Modules (UIM) は、IBM System x サーバー、BladeCenter サーバー、および Flex システム用の拡張された管理機能を IT 管理者に提供するための、Microsoft System Center および VMware vCenter に対する拡張機能です。

UIM 拡張機能には、Microsoft System Center および VMware vCenter のスタンドアロン・アプリケーションおよびサービス・アプリケーションのためのプラグインのセットが組み込まれています。

IBM は、UIM を使用することで、IBM のハードウェア管理機能を統合し、定型的なシステム管理に要する時間と労力を削減するための、物理環境および仮想環境の基本的な管理機能を手頃な価格で提供することによって、Microsoft System Center および VMware vCenter の管理機能を拡張します。これにより、サーバーの統合および管理の簡素化を通じてコストの削減と複雑さの解消を実現するために必要な、ディスカバリー、構成、モニタリング、イベント管理、および電源管理機能が提供されます。

第 2 章 IBM UIM Unified Service

IBM UIM Unified Service は IBM UIM のバックエンド・コンポーネントです。

IBM UIM Unified Service は、IBM UIM が IBM サーバーにアクセスして管理するための機能を提供します。また、基礎となるツール・アプリケーションおよびプログラミング SDK のための実装環境も提供します。

IBM UIM Unified Service は、IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager または IBM UIM for VMware vCenter のいずれかと一緒にインストールして動作させる必要があります。

第 3 章 ライセンス交付

IBM UIM Unified Service は、IBM プログラム評価のご使用条件 (ILAE) または IBM プログラムのご使用条件 (IPLA) の下でリリースされた専有製品です。 ILAE では、ほぼすべての機能について、90 日間の試用が可能です。

第 4 章 ハードウェアおよびソフトウェア要件

サポートされる IBM UIM リリース、必要なハードウェアおよびソフトウェア、パフォーマンスを向上させるために推奨される要件についての情報が記載されています。

サポートされる IBM UIM リリース

- IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager、v5.0
- IBM UIM for VMware vCenter、v3.0

ハードウェア要件 (最小)

- 単一の x86-64 プロセッサ/コア
- 2 GB の RAM
- 20 GB のハード・ディスク空きスペース
- 100 mbps のネットワーク・カード

パフォーマンス向上させるには、以下を使用します。

- 4 つの x86-64 プロセッサ/コア
- 8 GB の RAM
- 40 GB のハード・ディスク空きスペース
- 10,000 mbps のネットワーク・カード

ソフトウェア要件

- Windows Server 2008 x64、2008 R2、2012、または 2012 R2
- Microsoft Visual C++ 2010 Redistributable Package - x86 (<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=5555> を参照)
- Microsoft Visual C++ 2008 SP1 Redistributable Package - x86 (<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=5582> を参照)
- Microsoft Visual C++ 2010 Redistributable Package - x64 (<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=14632> を参照)
- IBM UIM for Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) 2007 R2、2012、2012 SP1、2012 R2 または VMware vCenter 5.1

第 5 章 IBM Unified Service のインストール

IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager および IBM UIM for VMware vSphere のダウンロード・サイトに関する情報と、製品をインストールするための説明が記載されています。

始める前に

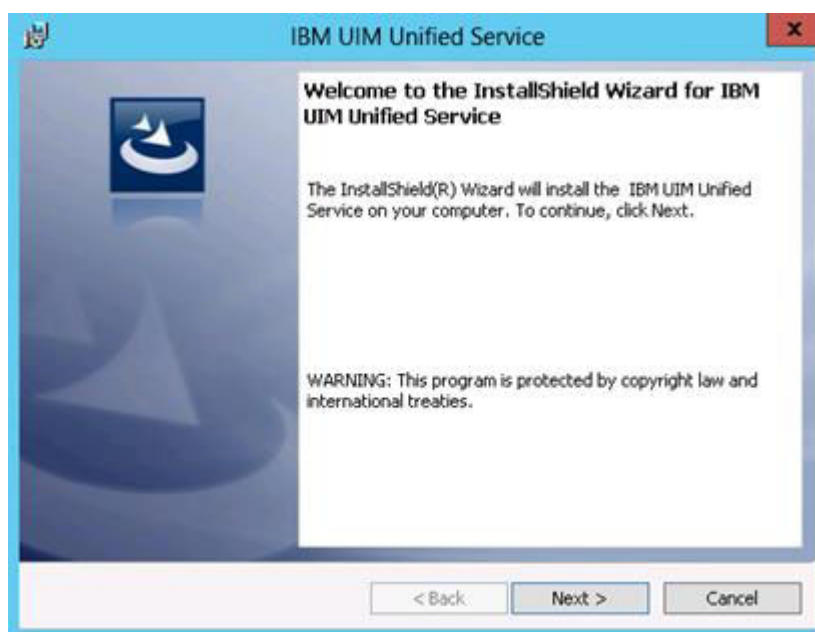
IBM UIM Unified Service インストーラーは IBM UIM インストーラーの一部であるため、このインストーラーを別途ダウンロードする必要はありません。代わりに、IBM UIM for Microsoft System Center または IBM UIM for VMware vCenter のいずれかのインストーラーをダウンロードします。

- **IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager、v5.0** IBM UIM ダウンロード・ページ (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/docdisplay?lnidocid=SYST-MANAGE>) からダウンロードします
- **IBM UIM for VMware vSphere、v3.0** IBM UIM ダウンロード・ページ (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/docdisplay?lnidocid=MIGR-VMWARE>) からダウンロードします

手順

インストール・プロセスは、IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager または IBM UIM for VMware vSphere のインストール中に自動的に開始されます。

1. 「IBM UIM Unified Service の InstallShield ウィザードによるこそ (Welcome to the InstallShield Wizard for IBM UIM Unified Service)」ウィンドウで、「次へ」をクリックします。



2. PostgreSQL データベースにアクセスするためのパスワードを入力します。データベース・ユーザー postgres を編集することはできません。データベース・サービスが listen する TCP ポートを変更しないでください。「次へ」をクリックします。



The screenshot shows the 'Database Configuration' window of the IBM UIM Unified Service. The window title is 'IBM UIM Unified Service'. Below the title bar, it says 'Database Configuration' and 'IBM UIM requires a database'. The main text area states: 'PostgreSQL will be installed on this system. Please input password and port to proceed.' There are three input fields: 'Username' with the value 'postgres', 'Password' (empty), and 'Port' with the value '9501'. At the bottom left is the 'InstallShield' logo. At the bottom right are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

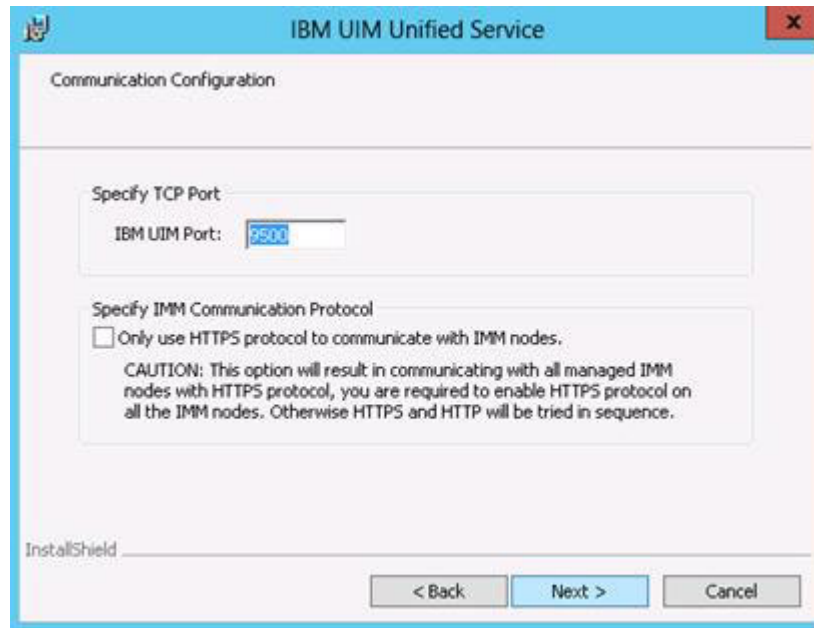
注: このデータベース構成が必要なのは、IBM UIM Unified Service が IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager と一緒にインストールされる場合に限られます。IBM UIM for VMware vSphere と一緒にインストールする場合、この構成ステップは不要です。

3. パスフレーズを入力して、「次へ」をクリックします。

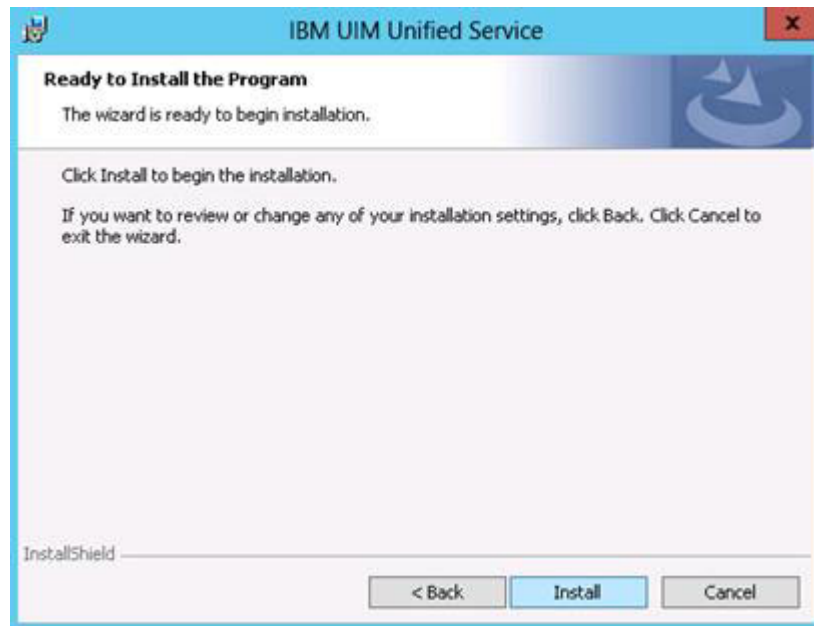


The screenshot shows the 'Security configuration' window of the IBM UIM Unified Service. The window title is 'IBM UIM Unified Service'. Below the title bar, it says 'Security configuration' and 'A passphrase is required to protect all the sensitive data configured in the product.' The main text area states: 'Enter the passphrase to be used'. There is a 'Passphrase:' label followed by a text input field containing four dots. At the bottom left is the 'InstallShield' logo. At the bottom right are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

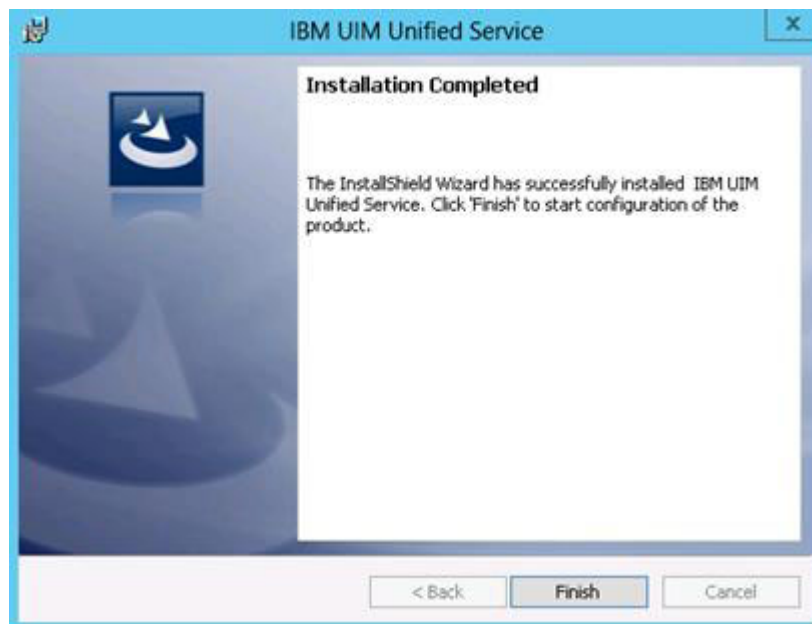
4. 「TCP ポートの指定 (Specify the TCP Port)」フィールドではデフォルト値を保持します。これは、IBM UIM Unified Service が listen するポートです。拡張セキュリティーが必要な場合、「IMM ノードとの通信に HTTPS プロトコルのみ使用する (Only use HTTPS protocol to communicate with IMM nodes)」のチェック・ボックスを選択して、IMM CIMON との通信プロトコルとして HTTPS を使用します。「次へ」をクリックします。



5. 「次へ」をクリックして、ファイル・データベースのインストールを続行します。



6. インストールが完了すると、以下のウィンドウが開きます。「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。

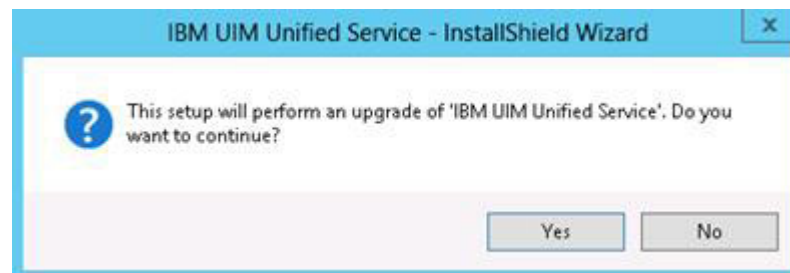


第 6 章 アップグレード

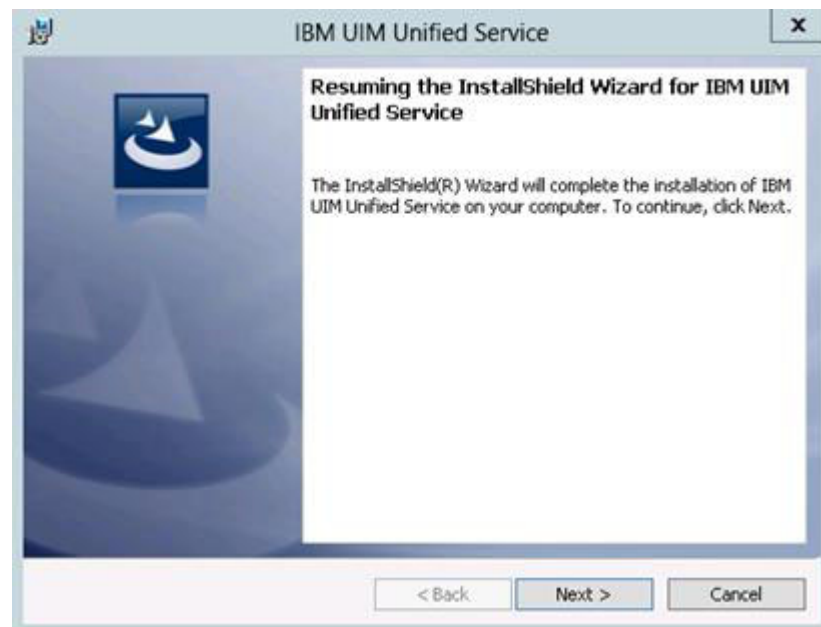
IBM UIM Unified Server アプリケーションの旧バージョンがインストールされている場合、アップグレード・インストールを実行することが必要な場合があります。

手順

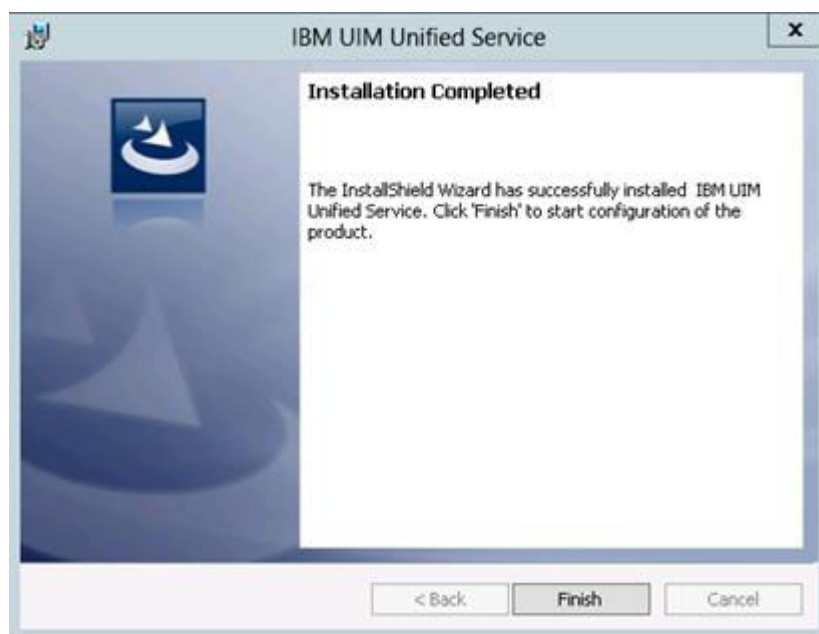
1. InstallShield ウィザードのアップグレード・ウィンドウで、「はい」をクリックして続行します。



2. 「次へ」をクリックしてアップグレードを続行します。



3. インストールが完了したら、「終了」をクリックして終了します。

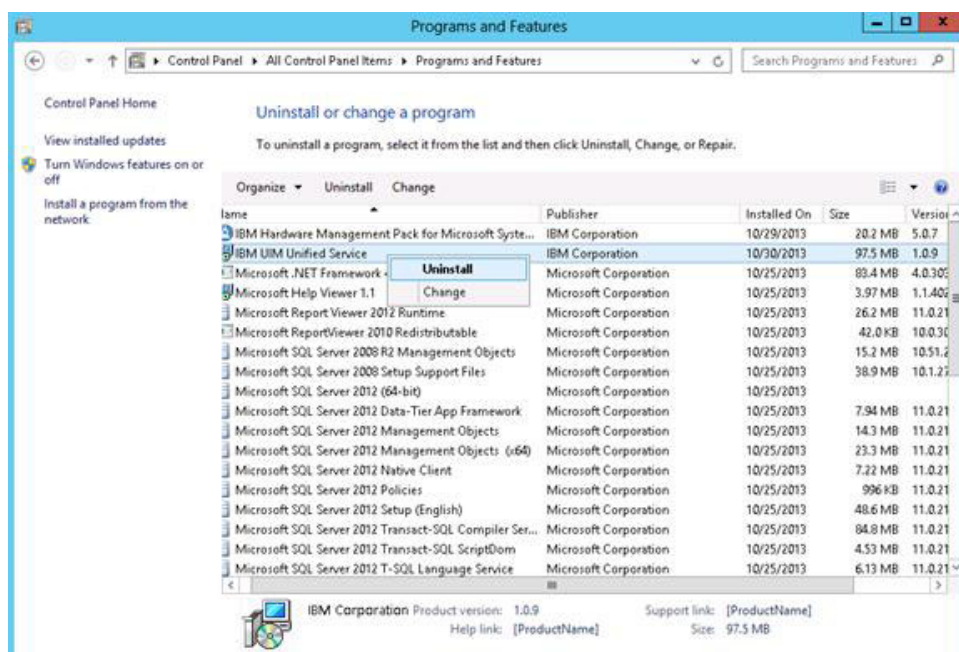


第 7 章 アンインストール

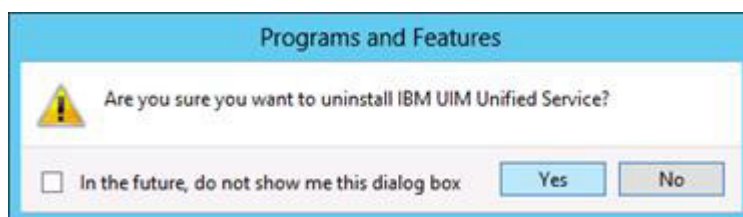
以下の手順を使用して、IBM UIM Unified Service をアンインストールします。

手順

1. 「コントロール パネル」で、「プログラムと機能」ウィンドウを開きます。
「IBM UIM Unified Service」を右クリックして、「アンインストール」を選択します。



2. 「はい」をクリックして、アンインストールを続行します。



タスクの結果

この手順により、IBM UIM Unified Service アプリケーションと Python 2.7.5 がシステムから削除されます。PostgreSQL (IBM UIM Unified Service が IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager と一緒にインストールされている場合) および IBM GSKit 8.0.50.11 は、別途削除する必要があります。

関連タスク:

『postgresql のアンインストール』

これはオプションの操作です。今後 IBM UIM Unified Service を再インストールして使用する时候のために、システムに保持しておいてもかまいません。

19 ページの『IBM GSKit のアンインストール』

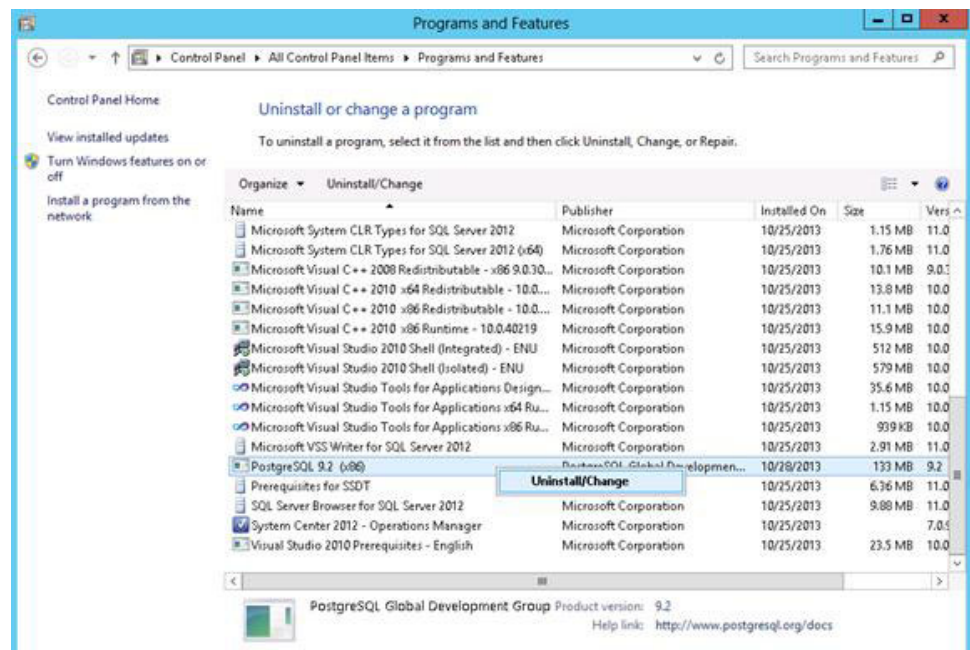
これはオプションの操作です。今後 IBM UIM Unified Service を再インストールして使用する时候のために、システムに保持しておいてもかまいません。

postgresql のアンインストール

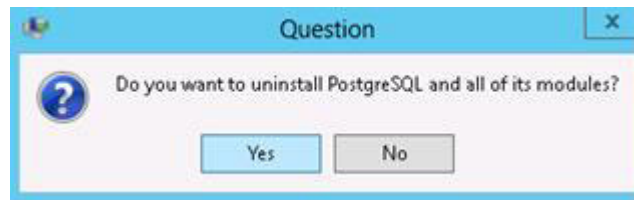
これはオプションの操作です。今後 IBM UIM Unified Service を再インストールして使用する时候のために、システムに保持しておいてもかまいません。

手順

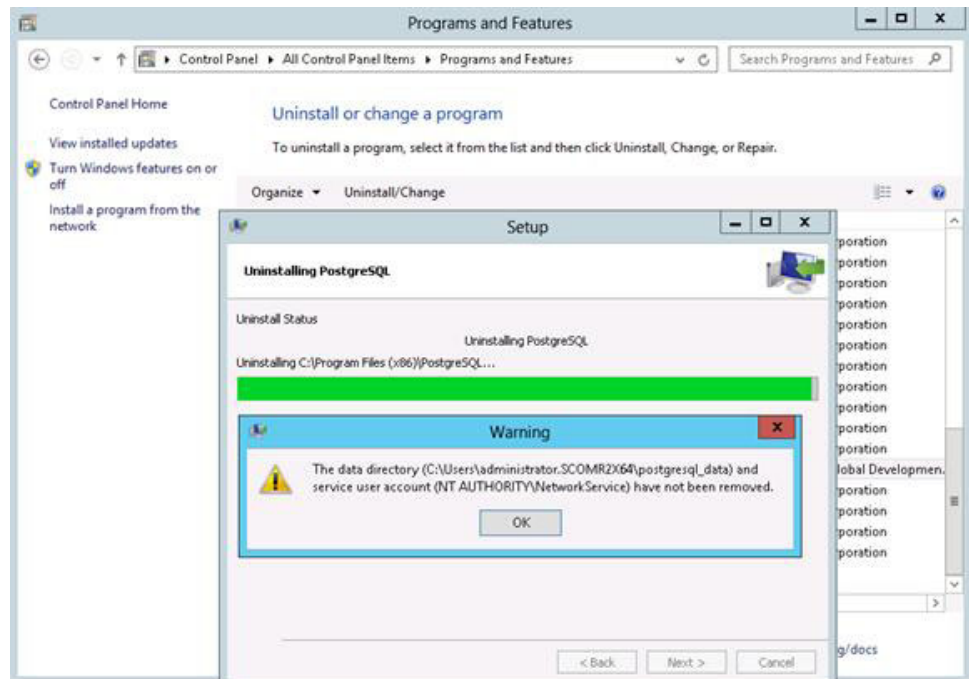
1. 「コントロール パネル」で、「プログラムと機能」ウィンドウを開きます。
「PostgreSQL」を右クリックして、「アンインストールと変更」を選択します。



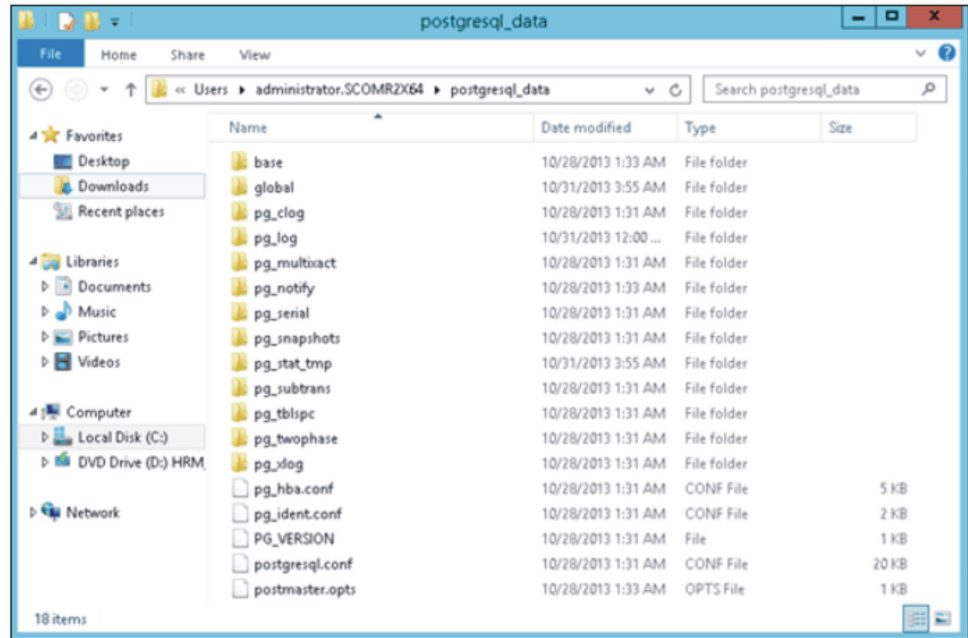
2. 「はい」をクリックして、アンインストールを続行します。



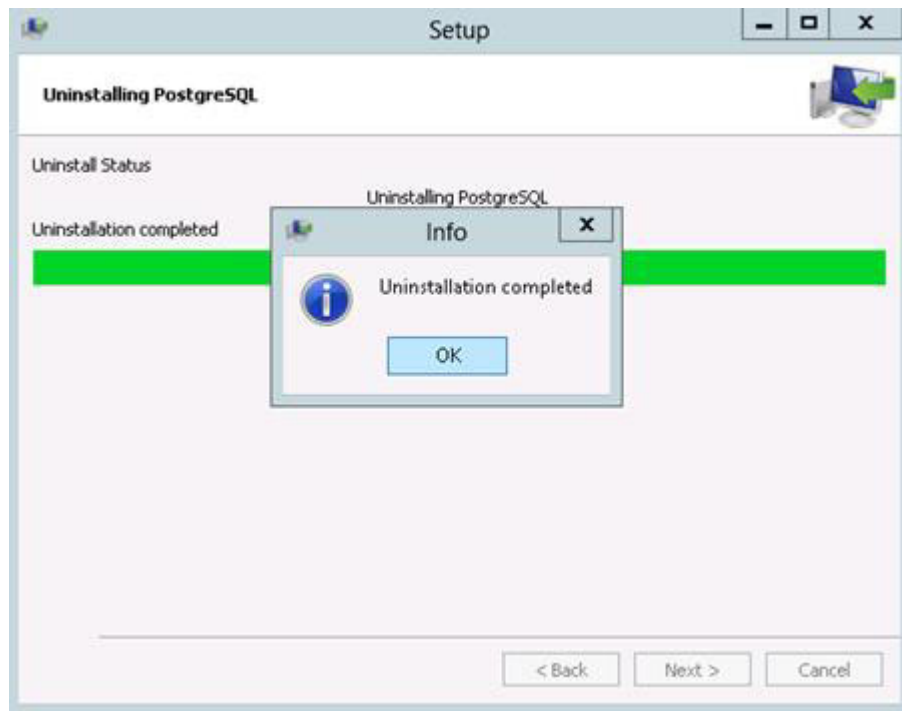
3. ユーザー・データおよび構成ファイルは今後の使用のためにファイル・システム内に保持されていること、およびこれらをシステムから削除するには手動で削除する必要があることを通知するウィンドウが表示されます。「OK」をクリックしてウィンドウを閉じ、「次へ」をクリックして続行します。



4. 保持されているファイルが postgresql_data ウィンドウに表示されます。今後これらが必要ない場合、これらを手動で削除できます。



5. 「OK」をクリックして、アンインストール・プロセスを終了します。

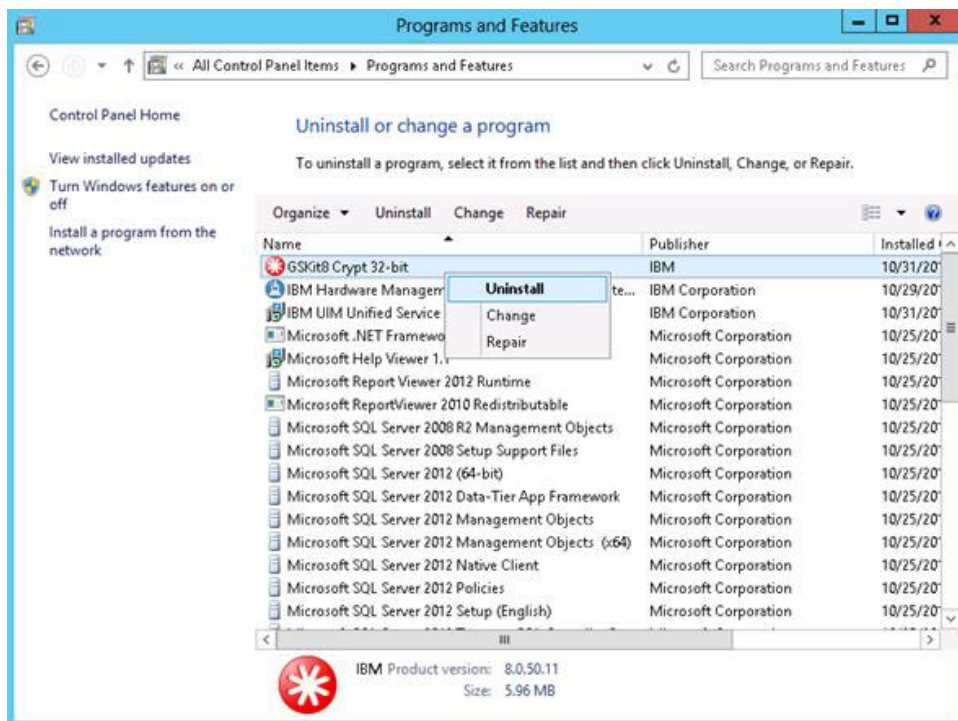


IBM GSKit のアンインストール

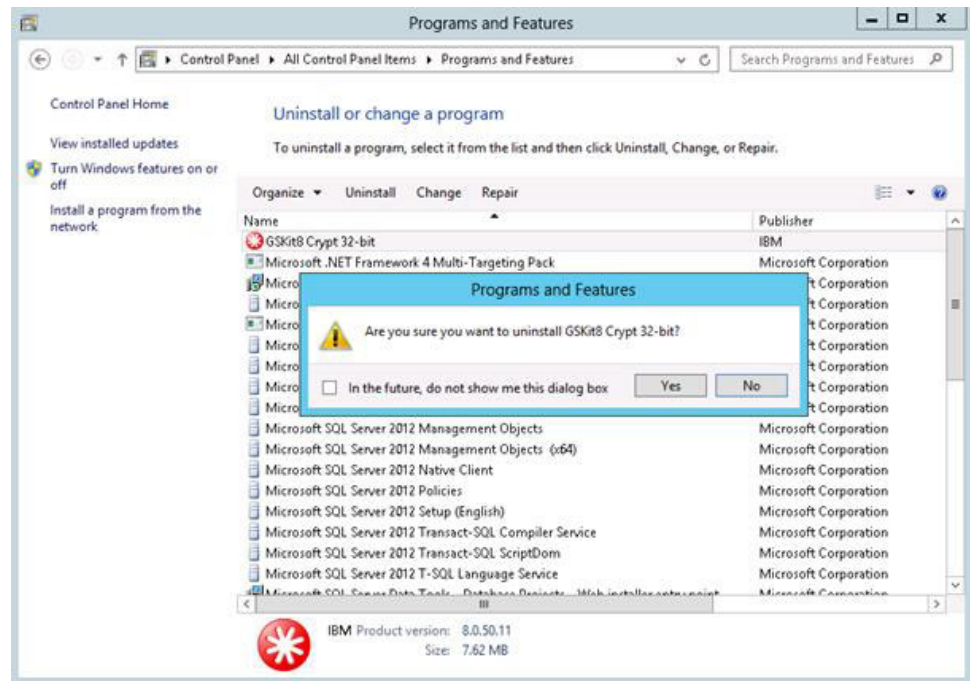
これはオプションの操作です。今後 IBM UIM Unified Service を再インストールして使用するときのために、システムに保持しておいてもかまいません。

手順

1. 「プログラムと機能」ウィンドウで、「はい」をクリックして、GSKit8 のアンインストールを確認します。



2. 「プログラムと機能」のアンインストール確認ウィンドウで「はい」をクリックして、アンインストールを続行します。

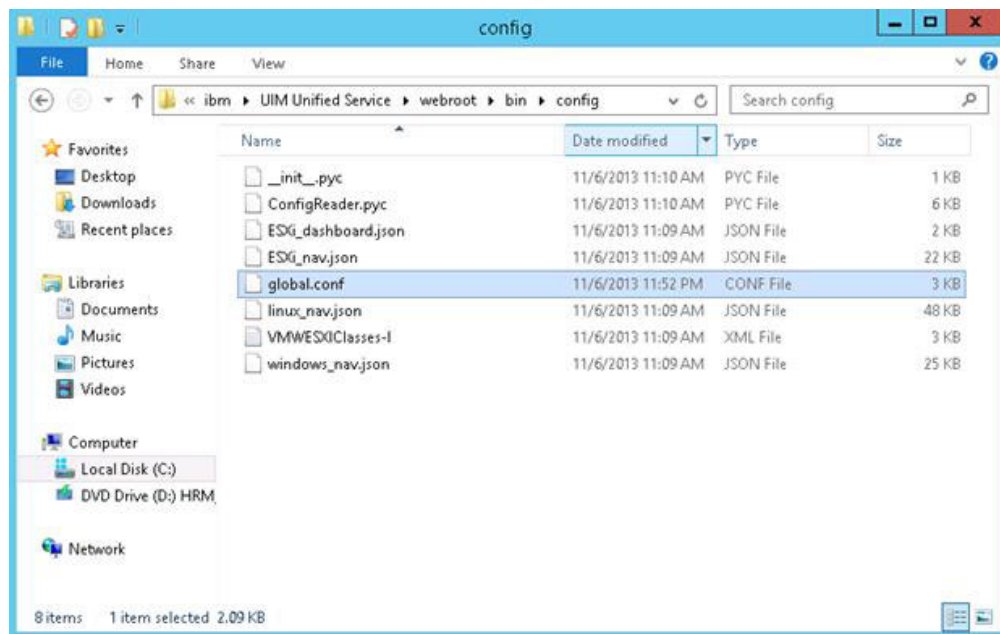


第 8 章 構成ファイル

global.conf ファイルには、IBM Unified Service で構成可能なすべての設定が含まれています。

global.conf ファイルは、IBM UIM Unified Service のインストール・パス (通常は、C:\Program Files (x86)\ibm) の \UIM Unified Service\webroot\bin\config にあります。

変更によって問題が生じないことが確実な場合を除き、設定を変更しないことをお勧めします。変更を有効にするには、構成ファイルを変更した後で、IBM Unified Service を再始動する必要があります。

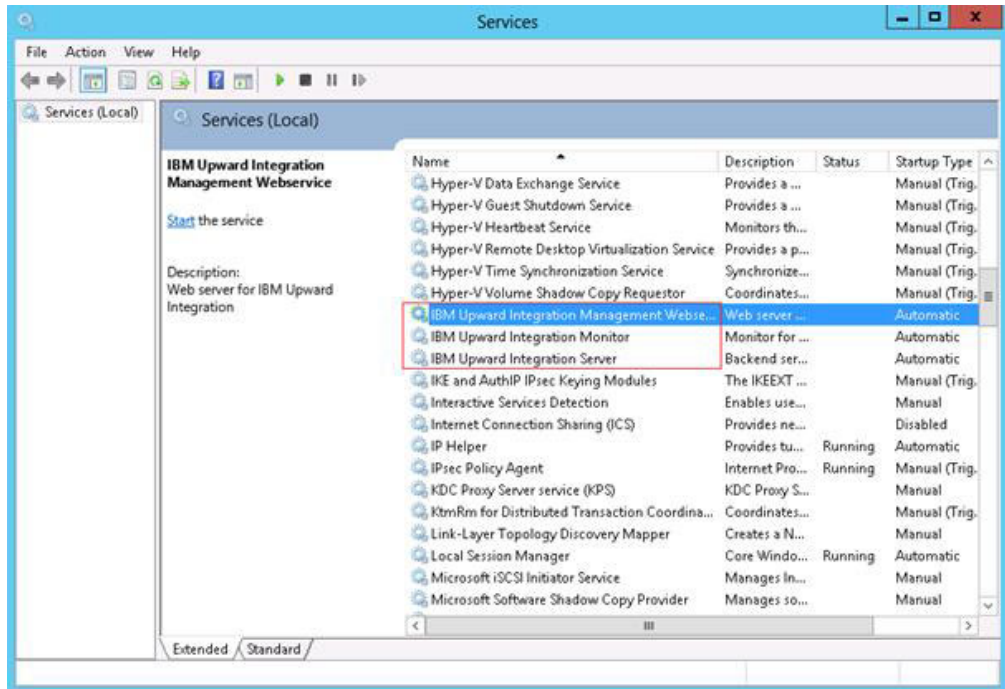


サービス

IBM Unified Service のインストーラーによって、以下の 3 つの Windows サービスが作成されます。

- IBM Upward Integration Management Webservice
- IBM Upward Integration Monitor
- IBM Upward Integration Server

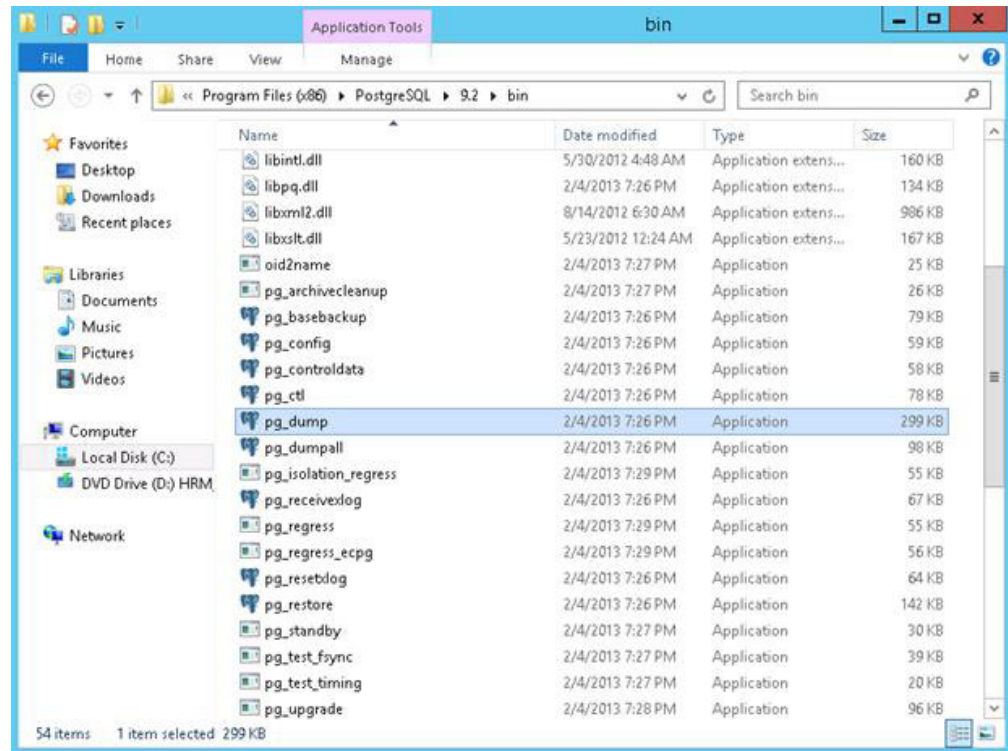
Unified Service が IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager または VMware vSphere インストーラーによってインストールされた場合、これらのサービスが自動的に開始されます。IBM Unified Service がスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールされた場合、これらのサービスは自動的に開始されません。



データベースのバックアップおよびリストア

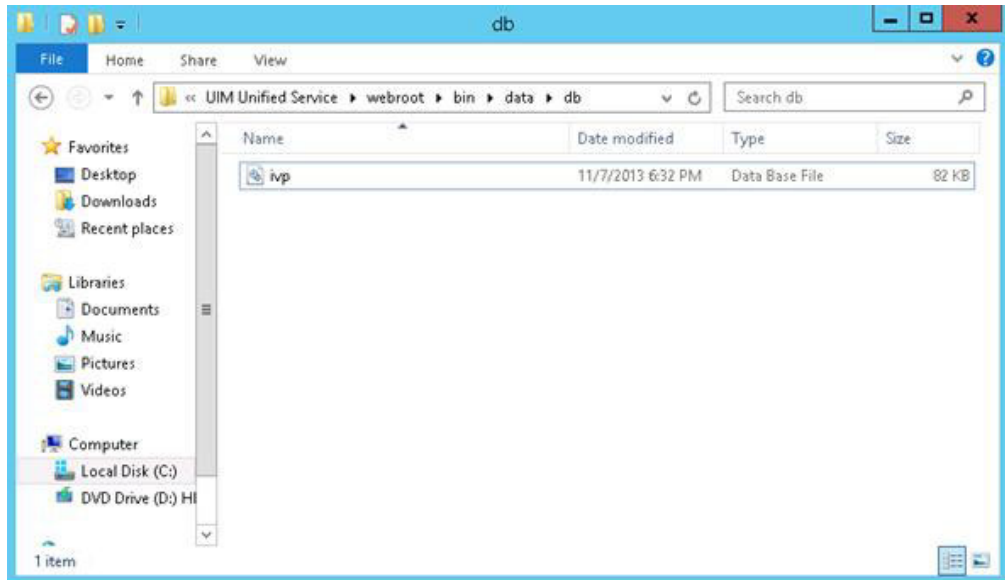
IBM UIM Unified Server 自体には、データのバックアップおよびリストア機能が提供されていません。このアクティビティは、別の方法を使用して実行できます。

IBM UIM for Microsoft System Center Operation Manager 用のデータベースをバックアップおよびリストアするには、PostgreSQL ツール (pg_dump、pg_dumpall、psql など) を使用します。これらのツールは、PostgreSQL のインストール・パスの bin ディレクトリ (通常は、C:\Program Files (x86)\PostgreSQL\9.2\bin) にあります。詳細な使用法については、オンライン資料を参照してください。



IBM UIM for VMware vSphere の場合は、以下の指示に従ってください。

1. 前の図に示されている「Windows サービス (Windows Services)」ウィンドウの 3 つの Windows サービスを停止します。
 - IBM Upward Integration Management Webservice
 - IBM Upward Integration Monitor
 - IBM Upward Integration Server
2. ivp.db ファイルを、バックアップ用の特定のファイル名を使用して別のフォルダーにコピーし、データをリストアするために、いずれかのバックアップを ivp.db ファイルに上書きコピーします。ivp.db ファイルは、IBM UIM Unified Service のインストール・パス (通常は C:\Program Files (x86)\ibm\ の \UIM Unified Service\webroot\bin\data\db ディレクトリーにあります。
3. 3 つの Windows サービスを再始動します。



ネットワーク・アクセスおよびファイアウォール設定

表 1. : デフォルトの設定値

プロトコル	ポート	方向	コメント
TCP	9500	インバウンド	IBM Unified Service
TCP	9501	インバウンド	PostgreSQLService

ファイアウォール・アプリケーションが使用中の場合、対応するネットワーク通信を許可するために、ファイアウォール規則に対して例外ルールを作成することが必要な場合もあります。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

商標

IBM、IBM ロゴ、および `ibm.com`[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、PostScript は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Cell Broadband Engine、Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Intel、Intel Xeon、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

重要事項

以下は、用語および請求に関する重要な前提事項についての視点です。

プロセッサの速度とは、マイクロプロセッサの内蔵クロックの速度を意味しますが、他の要因もアプリケーション・パフォーマンスに影響します。

CD または DVD ドライブの速度は、読み取り速度が変動します。実際の速度は記載された速度と異なる場合があります、最大可能な速度よりも遅いことがあります。

主記憶装置、実記憶域と仮想記憶域、またはチャネル転送量を表す場合、KB は 1024 バイト、MB は 1,048,576 バイト、GB は 1,073,741,824 バイトを意味します。

ハード・ディスクの容量または通信ボリュームを表す場合、MB は 1,000,000 バイト、GB は 1,000,000,000 バイトを意味します。ユーザーがアクセス可能な総容量は、オペレーティング環境によって異なります。

内蔵ハード・ディスクの最大容量は、IBM から入手可能な現在サポートされている最大のドライブを標準ハード・ディスクの代わりに使用し、すべてのハード・ディスク・ドライブ・ベイに取り付けることを想定しています。

最大メモリーは標準メモリーをオプション・メモリー・モジュールと取り替える必要があります。

IBM は、ServerProven に登録されている他社製品およびサービスに関して、商品性、および特定目的適合性に関する黙示的な保証も含め、一切の保証責任を負いません。これらの製品は、第三者によってのみ提供および保証されます。

IBM は、他社製品に関して一切の保証責任を負いません。他社製品のサポートがある場合は、IBM ではなく第三者によって提供されます。

いくつかのソフトウェアは、その小売り版 (利用可能である場合) とは異なる場合があります、ユーザー・マニュアルまたはすべてのプログラム機能が含まれていない場合があります。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[カ行]

規則および用語 iii

[サ行]

重要事項 26

商標 26

[タ行]

特記事項 25

[ハ行]

本書について iii

I

IBM ServerProven ページ v

M

Microsoft Systems Management Solutions
for IBM Servers の IBM Web サイト
v

S

System x 用の IBM システム管理ソリューション v
Systems テクニカル・サポート・サイト
v

W

Web リソース v



Printed in Japan